

事例②（高松市教育委員会の研修会）

- 研修名：第1回高松市地域学校協働活動研修会
- 目的：教職員や地域住民等が地域学校協働活動を推進する意義や、コーディネーターの役割について、共に学び、考えることにより、共通理解を深めることを目的とする。
- 主催者：高松市教育委員会生涯学習課
- 開催日時：令和6年7月9日（火）
13時30分～16時25分
- 会場：高松市役所13F 大会議室
- 講義：地域学校協働活動の意義とコーディネーターの役割等について
～地域の未来をつくるのは子どもたち、
子どもたちを地域の力で育てよう！～



- 講師：全国体験活動ボランティア活動総合推進センター
コーディネーター 大坪 直子 氏
- 受講対象者：高松市地域学校協働活動推進員、学校関係者、学校運営協議会委員、
コーディネーター候補者、地域住民 等
- 参加者数：97名（+主催者側7名）
- 研修内容：

講義

- ◎地域学校協働活動について
- ◎学校支援活動から地域学校協働活動へ
- ◎連携・協働で育つ子どもたち
- ◎地域学校協働活動の実践として
- ◎推進員（コーディネーター）の活動・役割
- ◎ボランティア人材（人財）の活動
- ◎ボランティアをどう集めるか
- ◎ボランティアにはどのように協力してもらうか
- ◎子どもも大人も学び合い育ち合う
協働活動でボランティアの楽しさ・喜び
- ◎活動事例

演習

- ◎自己紹介（育てたい子どもたち、自身の学校の活動プチ自慢）
- ◎「育てたい子どもたち」
- ◎「高松市のお宝」を子どもたちに伝えたい

学校のカリキュラムに組み込むために、連携する人材等

<主な感想等>

- 自分の地域にはコーディネーターがないので、これを機にぜひコーディネーターをつくり、学校運営協議会としてさらに盛り上げ成果を出せるようにしていきたい。
- 地域学校協働活動は非常に理解しづらい概念であるため、各地の具体的事例を聞いたのがありがたかった。成功例を数多く紹介していただくことで、活動のヒントがつかめるように思う。
- いろいろな地域のいろいろな立場の方とグループワークできたことが大変勉強になった。
- 具体例について詳しく説明していただけると、どう一歩踏み出したらよいのか参考になる。
- 対話の場を地域でも増やして、学校と地域でつながりながら推進していきたい。
- 学校・地域・保護者のチームだったので様々な意見が聞けてとても楽しかったし、気づきも多くあった。
- グループワークにおいては、高松市の良さと各地域の良さを知り、共通項、共通課題、共通のよさがありシビックプライドにつながると感じた。
- 具体的な予算や補助金についても学びたい。
- 「育てたい子どもたち」「高松市のお宝」をワークショップで話し合うことで地域の大切さを考え見つめ直すことができた。
- 協働活動というよりはコーディネーターの方の考え方を知る機会となった。今後は各校の取組や人の動きについて交流したい。
- 説明時間がもう少し長くてもよかった。
- コーディネーターとしての講師の経験談を中心に聞かせて欲しかった。
- 今日学んだことを今後の活動に活かしていきたい。
- 他県の事例、またはワークショップで他地域の取組の話聞いて良かった。自分の地域に戻って何ができるか改めて考えていきたい。
- コーディネーターはどのような働きをするのか具体的に教えて欲しい。

○学校・地域・保護者と子どもの育成について熟議することが地域学校協働活動を推進するにあたって非常に大事だとわかった。

○地域学校協働活動を進めているが、自分たちが行っていることが間違いではないということが分かった。今後、組織を整理して進めていく必要があると思う。

○グループワークをすることで自校の自慢を見つめ直すことができた。いろいろな立場の人の話を聞くことで考えが深まった。立場のちがう人との対話は、幸せな気持ちになり元気が出た。

○具体的な事案を元にもっとゆっくり話が聞きたかった。意見の取り上げ方、コーディネートの方法、具体的な実現までのプロセスなど教えていただきたい。